

取扱説明書

ティルト & リクライニング車いす アクトモア ネットィ4U

このたびは、本製品をご利用いただき、まことにありがとうございます。
この「取扱説明書」には、本製品を安全にお使いいただくための注意事項
や使用方法などを記載しています。

- 本製品をお使いになる前に、必ずこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しく安全な取扱方法を理解してください。
- この「取扱説明書」はお読みになった後も、いつでも見られる場所に保管してください。
- 本製品は、改良などにより「取扱説明書」の内容と一部異なる場合もあります。
- ご不明な点がありましたら、当社までお問い合わせください。

株式会社フロンティア

1 ご使用上の注意

危険

【死亡または重傷を招くもの】

- 急な坂を下る場合は、後ろ向きで下がってください。
前向きで下ると搭乗者が転落する可能性があります。
- 車道を通らないでください。
車いすは歩行者として扱われます。車道を通らず、必ず歩道、または道路の右側を走行してください。
- スピードを出さないでください。
スピードが出ているときの急カーブ、急停止は転倒するおそれがあり危険です。
- 溝や踏切の線路での落輪、キャストの挟み込みには十分注意してください。
- 駆動輪が外側に外れないか確認してください。
駆動輪が正しく取り付けられていない場合、駆動輪が外れ、車いすが転倒しケガをするおそれがあり危険です。
- キャスタが地面側に向かって外れないか確認してください。
キャストが正しく取り付けられていない場合、キャストが外れ、車いすが転倒しケガをするおそれがあり危険です。
- 本製品は、介助ブレーキが付いておりませんので、車いすを操作する場合には十分注意してください。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 取り扱いが理解できないと思われる方が使用する際には、十分注意してください。
取扱説明書に書かれた内容が理解できないと思われる方（幼児や認知症の方など）が使用する場合には、保護者、介護者などが必ず取扱説明書に従った使用を確保し、本人による製品の誤動作、その他誤った使用方法による事故を未然に防いでください。
- 使用する前に駐車ブレーキの利きを必ず確認してください。
- アームサポート（肘置き）やフットサポート（足置き）は必ず取り付けて使用してください。
走行中、体が不安定になり危険です。

警告

【死亡または重傷を招く可能性があるもの】

- 本製品から乗り降りするときは、必ず左右の駆動輪に駐車ブレーキをかけてください。車いすが動いて事故につながる可能性があります。
- 乗り降りの際には駐車ブレーキのレバーに体重をかけないでください。レバーが破損・変形し、転倒するおそれがあります。
- フットサポート(足置き)に立ったり、直接体重をかけないでください。フットサポート(足置き)が破損したり、バランスを崩し倒れるおそれがあります。
- 本製品を駐車するときは、水平で平坦な場所に駐車してください。坂道などの傾斜がある場所では、駐車ブレーキを使用しても車いすが動く場合があり、転倒など事故につながるおそれがあります。
- 脚部の取り外し・取り付け・角度調整は、必ず駐車ブレーキをかけて行ってください。
- 移乗や、座面角度調整・背もたれ角度調整をする際には、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを下に向けてください。
- ヘッドサポートやアームサポート(肘置き)、フットサポート(足置き)を持って本製品を持ち上げないでください。ヘッドサポートやアームサポート(肘置き)、フットサポート(足置き)が外れてケガをするおそれがあります。
- 本製品を物品運搬や歩行の補助具としてなど、車いす以外の目的で使用しないでください。
- 本製品の使用者最大体重(125kg)を守ってください。
- 本製品は1人乗り用です。2人以上で座ったり、動かさないでください。
- バックサポート(背シート)に重い物などをかけないでください。転倒するおそれがあります。
- 搭乗者が乗っている状態で本製品を持ち上げないでください。

注意

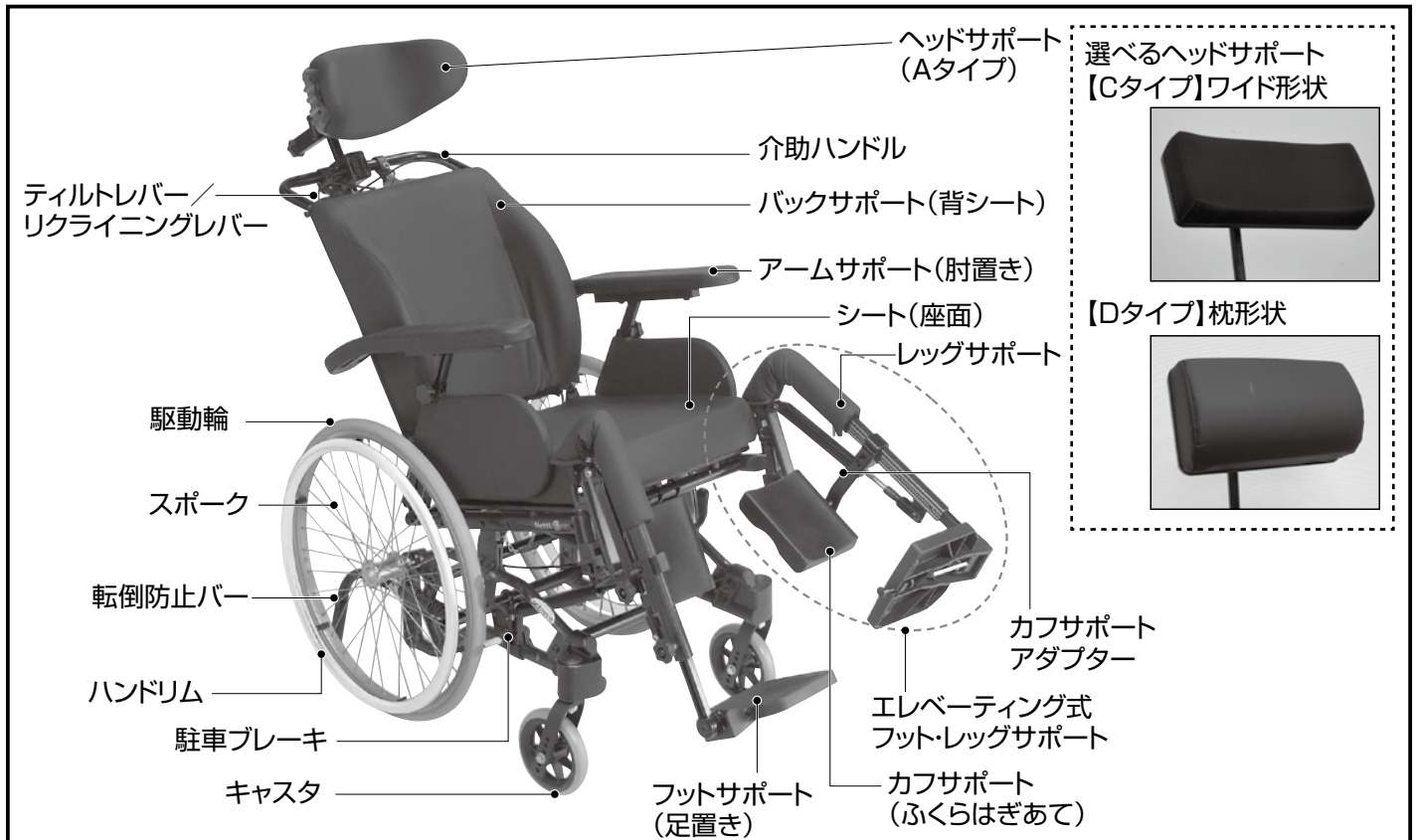
【軽傷または中程度の傷害を招く可能性があるもの】

- 乗る前に駆動輪・キャスト・駐車ブレーキなどのネジを点検し、ゆるんでいるときは増し締めをしてください。
- 本製品に乗って1人で外出することはできるだけ避けてください。
- 狭い空間を通り抜けるときは、ハンドリムと壁の間に手や指を挟むおそれがありますので注意してください。また、指を駆動輪やスポークに挟まないよう注意してください。
- フットサポート(足置き)は、床面高さより5cm以上、上げた状態で使用してください。
- 転倒防止バーは常に使用してください。特に、段差を乗り越える際は、転倒防止バーを上向きにし、通過後には下向きに戻し忘れないよう、注意してください。転倒防止バーを下げたまま段差を乗り越えると、転倒防止バーや車体が破損するおそれがあります。
- ヘッドサポートを持って座面角度調整・背もたれ角度調整をしたり、移動をしないでください。部品が破損するおそれがあります。
- 走行中、足がフットサポート(足置き)から落ちないようにしてください。
- 走行中、体を乗り出さないでください。走行の安全を損ない危険です。
- 搭乗者が本製品に完全に座れているか確認してから走行してください。体の一部や衣服が駆動輪に挟まれていると危険です。
- アームサポート(肘置き)を下げる時、手や衣服を挟み込まないよう、注意してください。
- 駆動輪を握って本製品の操作をしないでください。駐車ブレーキに指を挟みケガをするおそれがあります。
- 駆動輪のスポーク部に指を差し込まないでください。ケガをするおそれがあります。
- 分解や改造をしないでください。強度や耐久性が低下し、危険です。
- 本製品を火気に近づけないでください。座席のシートが燃えたり、熱くなった金属部でやけどをするおそれがあります。
- ナット、ネジなどの細かい部品を紛失しないよう注意してください。

2 製品の特徴

- おしりや太ももだけでなく背中にも体圧を分散できる座面角度調整（ティルト機能）と、背もたれ角度調整（リクライニング機能）で、安定した座位を保持できます。
- フットサポート（足置き）の調整機能、アームサポート（肘置き）の高さ・奥行調整機能、ヘッドサポートの高さ・角度・奥行調整機能付きで、ご利用者のお体に合わせた調整が可能です。
- ノンパンクタイヤ採用により、空気圧のチェックやパンクの心配がありません。

3 各部の名称



4 適合調整

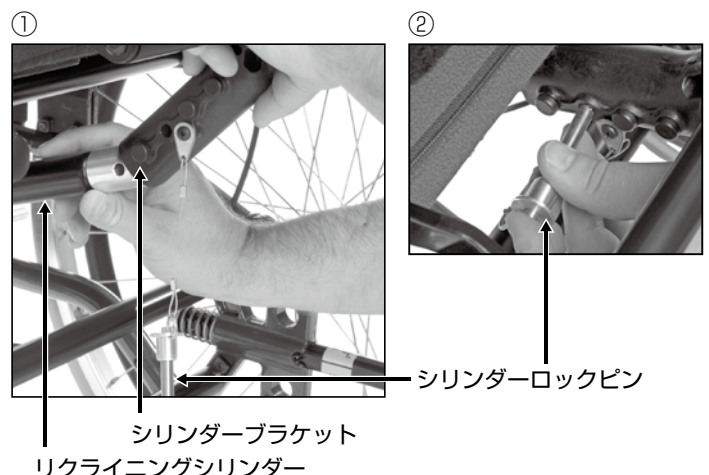
1. バックサポート(背シート)の調整のしかた

- ①シート（座面）下にあるリクライニングシリンダーにシリンダーブラケットをかぶせます。
- ②付属しているシリンダーロックピンのボタンを押しながら、シリンダーブラケットの横から差し込み、シリンダーと固定します。

※シリンダーブラケットには4ヶ所穴があいています。シリンダーロックピンの差し込み位置は、シート（座面）の奥行きに合わせてください。（P4参照）

△注意

シリンダーロックピンを差し込んだ後、バックサポート（背シート）が確実に固定されていることを確認してください。

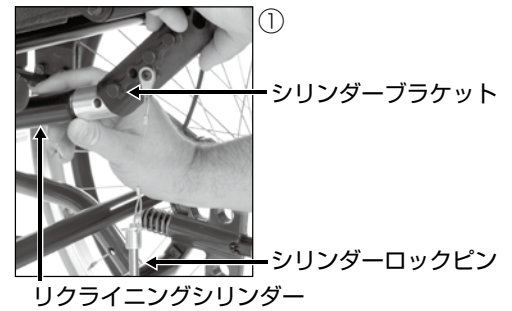


2. シート(座面)の奥行き調整のしかた

シート(座面)の奥行きは37.5~45cm(背パイプから座面先端寸法)まで4段階で調整可能です。

- ①シート(座面)下のシリンダーロックピンを外します。
シリンダーブラケットとリクライニングシリンダーが外れる状態になります。

※奥行きを短くする場合には、バックサポート(背シート)最大に倒してから外してください



- ②本体両側にあるバックサポート側の支柱と本体フレームをつないでいるネジを両側とも外します。(6mm六角レンチ使用)

- ③バックサポート側の支柱をスライドさせ、下図を参考にして奥行きを調整します。

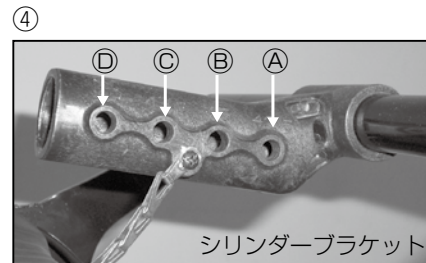
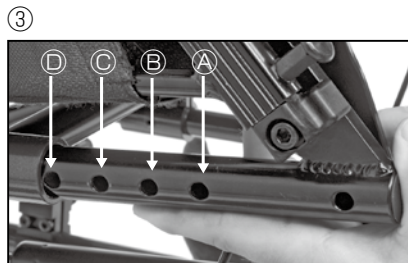
- ④奥行きを調整後、シリンダーブラケットにシリンダーロックピンを取り付けます。
シリンダーブラケットに差し込むシリンダーロックピンの位置は下図を参考にしてください。



△注意 異なる位置に設定した場合、背もたれ角度調整(リクライニング機能)が正常に作動しない場合や、破損の原因となるおそれがあります。

● 設定位置

- ① 37.5cm
- ② 40cm
- ③ 42.5cm
- ④ 45cm



3. エレベータ式フット・レッグサポートの調整のしかた

フット・レッグサポートは角度調整(エレベータ機能)が可能で、外側に回転し取り外すことができます。また、フットサポート(足置き)の角度と、シート(座面)間距離も無段階で調整可能です。

フットサポート(足置き)とシート(座面)間距離の調整

フットサポート(足置き)は、シート(座面)の前端から39~52cmまで調整可能です。

- ①レッグサポートパイプの下側の星型ノブネジ(黒)をゆるめます。
②距離を調整し、星型ノブネジ(黒)を締めて固定します。

レッグサポートの角度調整(エレベータ機能)

- ①レッグサポートパイプの上側の星型ノブネジ(赤)をゆるめます。
②角度を調整し、星型ノブネジ(赤)を締めて固定します。

フットサポート(足置き)の角度調整

フットサポート(足置き)は無段階で角度を調整することが可能です。

- ①フットサポート(足置き)の横にある角度調整ネジをゆるめます。(5mm六角レンチ使用)
②フットサポート(足置き)の角度を調整し、角度調整ネジを締めて固定します。



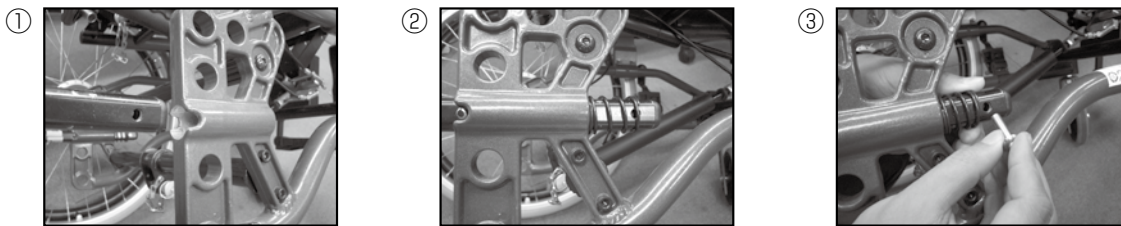
星型ノブネジ(赤) 角度調整ネジ
星型ノブネジ(黒)

△注意

- フットサポート(足置き)の上には絶対に立たないでください。
- レッグサポートを持って、本製品を持ち上げないでください。

4. 転倒防止バーの取り付け

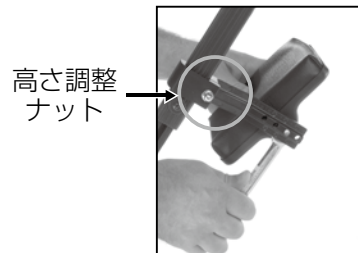
- ① 転倒防止バーを本体フレームに差し込みます。
- ② バネを転倒防止バーに取り付けます。
- ③ ピンを転倒防止バーの先端に差し込み、バネが外れないようにします。



5. カフサポート(ふくらはぎあて)の調整のしかた

カフサポート(ふくらはぎあて)の高さの調整

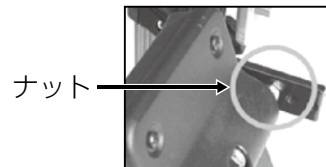
- ① レッグサポートにカフサポートアダプターを止めている高さ調整ナットをゆるめます。(10mmスパナを使用)
- ② 高さを調整し、高さ調整ナットを締めて固定します。



カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行き調整

カフサポート(ふくらはぎあて)の奥行きは4段階で調整可能です。

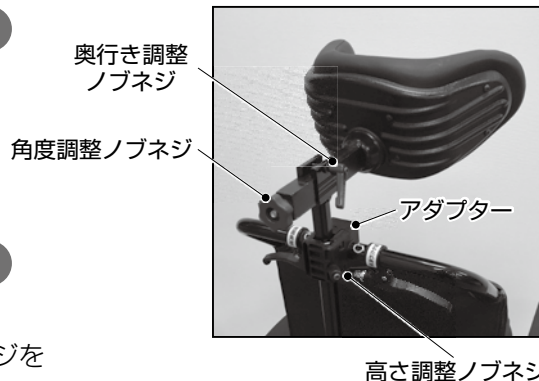
- ① カフサポート(ふくらはぎあて)とカフサポートアダプターの間にあるナットをゆるめて取り外します。(13mmスパナを使用)
- ② カフサポート(ふくらはぎあて)を取り外し、取り付け位置を変更し、ナットを締めて固定します。



6. ヘッドサポートの調整のしかた

ヘッドサポートの高さ・奥行き・角度の調整

- ① ヘッドサポート本体をアダプターに差し込みます。
- ② ヘッドサポートの高さ調整ノブネジ、奥行き調整ノブネジ、角度調整ノブネジをゆるめ、搭乗者に合わせて調整します。
- ③ それぞれのノブネジを締めて固定します。



上記調整ではヘッドサポートの位置が合わない場合

ヘッドサポートの角度や、左右の位置を微調整することができます。

- ① アダプターの上にあるアダプター固定ネジと内側にある4個のネジをゆるめます。
- ② 調整後、4個のネジを少しずつ順番に締めて固定し、最後にアダプター固定ネジを締めて固定します。

△ 注意 ヘッドサポートを持って座面角度調整・背もたれ角度調整をしたり、車いすの移動を行わないでください。部品が破損する原因となります。

7. アームサポート(肘置き)の調整のしかた

アームサポート(肘置き)の高さ調整

- ① アームサポート(肘置き)に付いている星型ノブネジをゆるめます。
- ② 高さ調整後、星型ノブネジを締めて固定します。



アームサポートパッドの前後調整

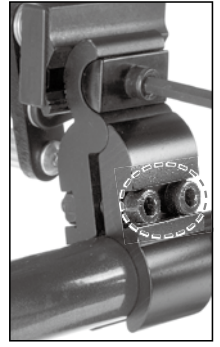
- ① アームサポートパッドの裏側にある星型ノブネジをゆるめます。
- ② 前後調整後、星型ノブネジを締めて固定します。

△ 注意 使用前に、アームサポート(肘置き)が確実に固定されていることを確認してください。

8. 駐車ブレーキ調整のしかた

- ① 駐車ブレーキ本体外側にある駐車ブレーキを固定しているふたつの六角ナットをゆるめ、前後にスライドします。(5mm六角レンチ使用)
- ② 位置が決まったら、六角ナットを確実に締めて固定します。
(駐車ブレーキをかけていない状態で駆動輪から約2cm離れている程度がめやす)
- ③ ふたつの六角ナットを締めた後は、上側ひとつの六角ナットをゆるめることで微調整できます。

⚠ 危険 ブレーキ調整後は必ず、ブレーキの利きを確認してください。



5 使用前の準備と点検

ご使用前に以下の点を確認してください

- 駐車ブレーキが駆動輪をロックすること。
駐車ブレーキの利きが悪いときには、当社にご連絡ください。
- 駆動輪が外れないこと。
ガタついているときは、ただちに使用を中止し、当社にご連絡ください。
- キャスタのネジがゆるんでいないこと。
ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。
- フットサポート(足置き)の先端の高さは地面より5cm以上、上げた状態で使用してください。
低すぎると凹凸路面や障害物にフットサポート(足置き)が当たり、転倒する危険があります。

6 使用方法

エレベーター式フット・レッグサポート

取り外すとき

- ① フット・レッグサポートを少し引き上げるとロックが外れます。
- ② フット・レッグサポートを外側に回転させて上に引き上げます。

取り付けるとき

- ① フット・レッグサポートを本体へ差し込みます。
- ② フット・レッグサポートを内側に回転させて下へ押し込むとロックがかかり、固定されます。

⚠ 警告

- フット・レッグサポートの操作時は、必ず駐車ブレーキをかけて転倒防止バーを下に向けた状態で行ってください。
- 本製品に搭乗者が乗っている状態でフットサポート(足置き)を調整する場合は、足を挟み込んだり、股関節の可動域に支障をきたさないよう十分注意して行ってください。
- 走行する前に、フットサポート(足置き)の支柱が確実に固定されていることを確認してください。
- 介助者が押して移動するときには、必ずフットサポート(足置き)を取り付けた状態で使用してください。
- レッグサポートを持って、車いすを持ち上げないでください。

アームサポート(肘置き)

取り外すとき

アームサポート(肘置き)の後ろ側にあるロックピンを引きながら、アームサポート(肘置き)を引き上げてください。

取り付けるとき

アームサポート(肘置き)の後ろ側にあるロックピンを引きながら、本体フレームに、アームサポート(肘置き)が固定されるまで差し込んでください。

⚠警告

- アームサポート(肘置き)の取り付け・取り外しは、必ず駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。
- 走行する前に、アームサポート(肘置き)が確実に取り付けられていることを確認してください。
- アームサポート(肘置き)を持って、本製品を持ち上げないでください。
アームサポート(肘置き)が外れ、ケガをするおそれがあります。
- アームサポート(肘置き)に重いものをのせるなど、過度な荷重をかけないでください。



ヘッドサポート

身体状況に合わせてオプションのヘッドサポート(Cタイプ、Dタイプ)を選択します。

取り外すとき

- ①ヘッドサポートの高さ調整ノブネジをゆるめます。
- ②ヘッドサポートの支柱を上へ抜いて取り外します。

取り付けるとき

- ①ヘッドサポートの支柱をアダプターに差し込みます。
- ②ヘッドサポートの高さを決めて、高さ調整ノブネジを締めて固定します。



転倒防止バー

移乗の際などに、車いすが転倒するのを防止します。

転倒防止バーは段差を乗り越える場合以外は常に使用してください。

使用するとき

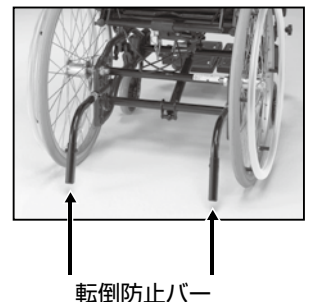
- ①転倒防止バー本体を手前に引き、180度回転させて地面に向かって下を向けさせます。
- ②「カチッ」と音がし、転倒防止バーが固定されていることを確認してください。

使用しないとき

- ①転倒防止バー本体が回転できるまで、転倒防止バー本体を手前に引きます。
- ②転倒防止バーを180度回転させ上に向け、「カチッ」と音がして転倒防止バーが固定できます。

⚠注意

5cm以上の段差を乗り越える場合、転倒防止バーを下ろしたままではキャストが浮き上がりません。必ず転倒防止バーを上向きに固定させてから操作を行ってください。



座面角度調整 (ティルト機能)

座面角度調整 (ティルト機能) は前傾5度～後傾20度の範囲で行えます。

- ①介助ハンドルの左側にあるティルトレバーを握りながら調整します。
- ②レバーを離すと角度が固定されます。

△ 警告

座面の角度調整をする際は、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを下に向けてください。



左レバー

背もたれ角度調整 (リクライニング機能)

背もたれ角度調整 (リクライニング機能) は90度～135度の範囲で行えます。

- ①介助ハンドルの右側にあるリクライニングレバーを握りながら調整します。
- ②レバーを離すと角度が固定されます。

△ 警告

背もたれの角度調整をする際は、必ず駐車ブレーキをかけ、転倒防止バーを下に向けてください。

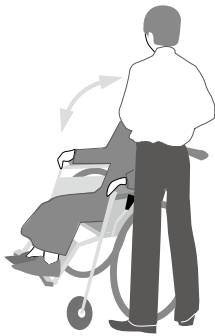


右レバー

ポイント

座面角度調整および背もたれ角度調整は、介助者が横に立って行うことをおすすめします。車いすの後ろに立ち操作を行う場合に比べ介助する方の負担が少なく、また、搭乗者の状況も確認できるため安全に行うことができます。

座面角度調整時 [推奨]



背もたれ角度調整時 [推奨]



後ろから角度調整を行う場合には、搭乗者の状況に十分注意してください。



角度調整方法 (推奨)

背もたれ角度調整と座面角度調整は同時に行わず、『①座面角度調整→②背もたれ角度調整』の順番で行うことをおすすめします。

ただし搭乗者の状況や使用の目的によって、操作は異なります。

移乗のしかた

1人で車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください。

△警告 車いすが動き出し大変危険ですので必ず駐車ブレーキをかけてください。

- ①車いすの駐車ブレーキを左右の駆動輪にかけておきます。
- ②フットサポート(足置き)を両方とも上げます。
- ③乗り移る側のアームサポート(肘置き)を外し、エレベーター式・フット・レッグサポートをスイングアウトして外します。

△警告 危険ですのでフットサポート(足置き)の上に乗りません。

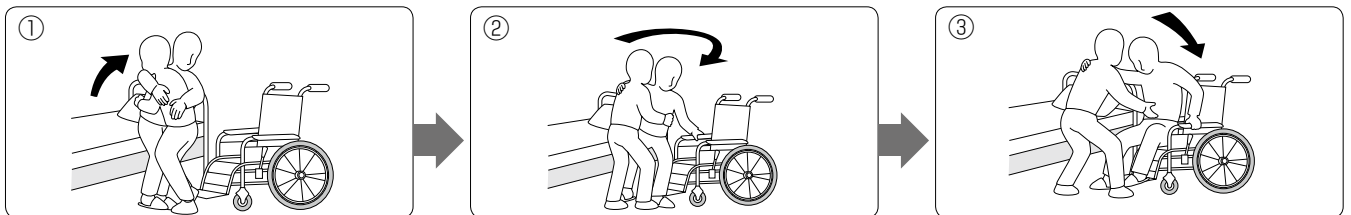
- ④車いすをしっかりと保持し、腰を浮かせゆっくり乗り移ります。
- ⑤アームサポート(肘置き)を差し込み、エレベーター式・フット・レッグサポートを回転させながら戻し、固定を確認します。
- ⑥フットサポート(足置き)を下ろして両足をのせます。

△注意 アームサポート(肘置き)やエレベーター式・フット・レッグサポートを戻すときは、衣服や手を挟み込まないように注意してください。

介助者と車いすに乗り移るとき

※車いすから降りるときは逆の要領で行ってください。

車いすに乗る方を介助者がベッドなどから移す方法です。双方にとって安全で負担の少ないことが重要です。



①介助者が片足を相手のひざの間に差し込んで、腰を支えながら立ち上がらせてみます。

②介助者のひざで相手を支えながら、車いすの方へおしりを向けます。

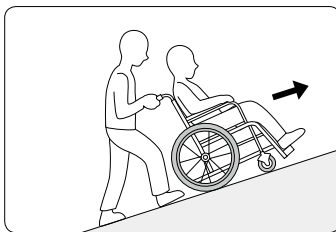
③ゆっくりと腰を下ろしてもらいます。
※「いち、にのさん」と声をかけながらお互いに協力しましょう。

△注意 転倒防止に十分配慮してください。(車いすの後方を支えるなどの方法があります。)

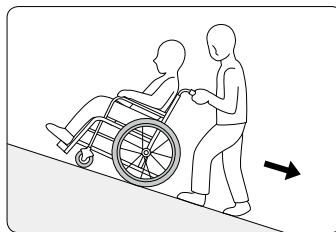
外出時の注意点

車いすの安全な使い方は、“ゆっくり”“確実に”が基本です。

坂道

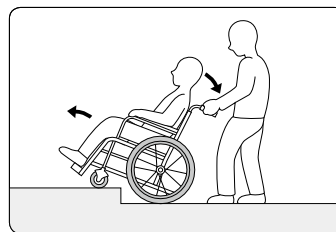


〈上り坂〉
押す人は体を少し前に倒して、押し戻されないよう、一歩ずつしっかりと押します。



〈下り坂〉
坂を下るときはゆっくりと、後ろ向きに一歩ずつ下ります。

段差のある場所



〈下るとき〉
後ろ向きでまず駆動輪をおろし、ティッピングレバーを踏んでキャストを上げたまま後進し、ゆっくりと下ろします。
※ 階段では車いす全体を持ち上げてください。

△注意 段差を通過したら、転倒防止バーを下向きに戻してください。

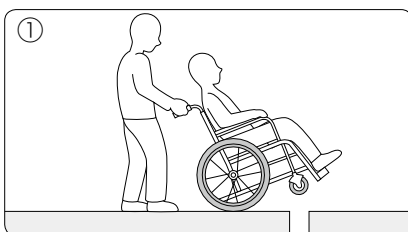
△警告

転倒防止バーが上向きになっていることを確認してください。

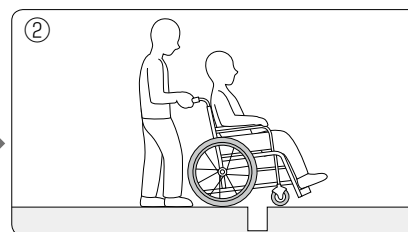
〈上がるとき〉
キャストを上げて進み、続いて駆動輪を押し上げます。

溝越え

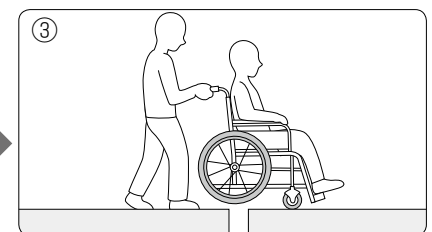
※あらかじめ溝の大きさを確認し安全に渡れる場合のみ実施してください。



①グリップ(押し手)を押し下げ、キャストを上げます。
※ この時、必ず声をかけてから行います。



②キャストを上げたまま前へ進み、溝を越えた向こう側にキャストをゆっくり下ろします。

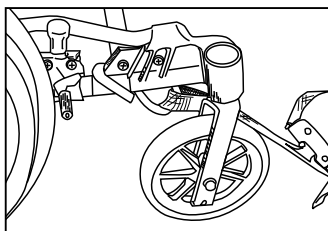
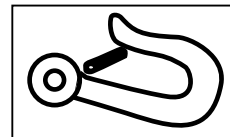


③次に駆動輪を持ち上げて前へ進み、溝を完全に越えたところでゆっくりと駆動輪を下ろします。

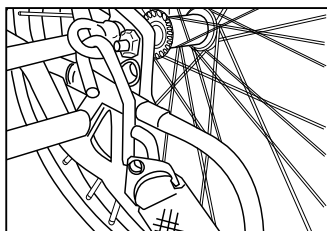
△注意 転倒防止に十分配慮してください。(車いすの後方を支えるなどの方法があります。)

搬送について

本製品の本体フレームにベルト固定位置を示すマーク(右図)があります。
本製品を自動車にのせる際は、車いすを自動車に固定するためのベルトを使い、固定してください。



前方取付図



後方取付図

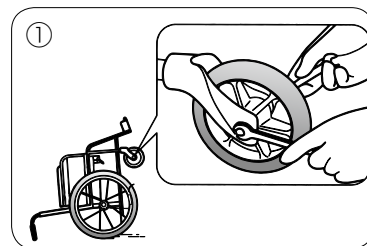
※固定用のベルトは、0度～45度の範囲で取り付けてください。

※後方固定は、「トランスポート・アタッチメント(別売)」を取り付け、固定することをおすすめします。

△注意 車いすを自動車に固定するためのベルトは、搭乗者の体を固定する安全ベルトとは異なります。
搭乗者の安全を確保するために安全ベルトを使用することをおすすめします。
ヘッドサポートを適切にセッティングしていれば頭部は安定しますが、自動車で搬送を行う際には十分でないことがあります。

7 日常のお手入れ

- ご使用前には必ず下記の事項を点検・整備し、常に安全な状態で使用してください。
- ① キャスタ・駆動輪・ブレーキなどのゆるみを点検し、ゆるんでいるときは、増し締めをしてください。
- ② ブレーキの利き具合が悪いときは、当社までお問い合わせください。
- 車いすは湿気に弱いので、水のかかる場所などに放置しないでください。
- フレームはときどき乾いた布でふいて、汚れを除いてください。
- シートが汚れたときには、水を含ませた布を固く絞り、シートの表面の汚れをふき取ってください。



8 故障かな？と思ったら

故障でない場合もありますので、修理を依頼される前にもう一度、以下の項目をチェックしてください。

症 状	考えられる原因	処 置
車いすがふらつく まっすぐ進まない	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストの調整が必要です。当社にご連絡ください
	駆動輪がきちんとロックしていない	駆動輪中央のプッシュボタンを押しながら本体に差し込み、抜けないことを確認してください
	搭乗者の体重が片側に寄っている	体重が均等にかかるように座りなおしてください
	車いすを動かす際に片側に力が加わっている	両側にできるだけ均等に力を加えてください
	片側の駐車ブレーキを強く締め過ぎている	駐車ブレーキの調整が必要です。当社にご連絡ください
	ネジ・ナット・ボルトが締まっていない箇所がある	すべてのネジ類が締まっているか確認してください。ゆるんでいる箇所があれば、当社にご連絡ください
車いすが重く 操作しづらい	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストの調整が必要です。当社にご連絡ください
	駆動輪がきちんとロックしていない	駆動輪中央のプッシュボタンを押しながら本体に差し込み、抜けないことを確認してください
	キャストに埃などが巻き付いている	キャストを手で回転させて、巻きついているものを取り除いてください
	キャストに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください
	駐車ブレーキがかかっている	駐車ブレーキを解除してください
駐車ブレーキが 利かない	駆動輪が磨耗している	駆動輪の交換が必要です。当社にご連絡ください
	ブレーキパッドが駆動輪に当たっていない	駐車ブレーキの調整が必要です。当社にご連絡ください
	駆動輪とブレーキパッドの間に障害物がある	障害物を取り除いてください
キャストがガタつく	キャストが左右同じ高さになっていない	キャストの調整が必要です。当社にご連絡ください
	フロントフォークのネジ類がゆるんでいる	ゆるみの調整が必要です。当社にご連絡ください
	キャストに体重がかかり過ぎるなどバランスが悪くなっている	全体的な調整が必要です。当社にご連絡ください

※チェックをしても正常に使用できない場合、または破損や異常を発見した場合はすぐに使用を中止して、当社にご連絡ください。

9仕様

製品名	アクトモア ネットィ4U(フォーユー)	
本体外形寸法(全長×全幅×全高)	100×58×122~153cm	
座幅	40cm	
座面奥行	37.5~45cm(4段階調節)	
前座高	44cm	
背もたれ角度調整(リクライニング機能)	90~135度	
座面角度調整(ティルト機能)	-5~+20度	
バックサポート(背シート)	48cm	
アームサポート(肘置き)	25.5~39cm(無段階調整) (4.5cm前後調整可、着脱可)	
レッグサポート	39~52cm (エレベーター機能、着脱可)	
ヘッドサポート	寸法	標準仕様/Aタイプ(コの字形状):幅30×高さ18cm オプション/Cタイプ(ワイド形状):幅37×高さ15.5cm オプション/Dタイプ(枕形状):幅27×高さ15cm
	調整範囲	前後9cm、左右10cm、上下30cm、全方向30度回転
重量	約31.5kg	
キャスト径	6インチ(ノンパンクタイヤ)	
駆動輪径	22インチ(ノンパンクタイヤ)	
使用者最大体重(積載物も含む)	125kg	
標準装備	専用クッション、転倒防止バー	

■製品の仕様は予告なしに変更することがあります。あらかじめご了承ください。

株式会社フロンティア

フクシのこトハ

フリー
コール **0120-294-518**

千葉本社 福祉本部 〒261-0002
千葉県千葉市美浜区新港 42-4
TEL.043-301-8338



●アフターサービスのお問い合わせ

取扱店